第 3 回揚輝荘活用検討会　開催結果

＜概要＞

テーマ「揚輝荘の活用方針　まとめ」
日時：2011 年 11 月 24 日（木）18：30～20：40
場所：揚輝荘伴華楼　1Ｆ応接室
出席者：13 名（事務局含む）
進行：川本直義

　エルイー創造研究所が作成した聴松閣活用・展示計画（案）をもとに意見交換を行った。主な意見は、以下のとおりである。

○　事務局案の提示について
- 以前は、最終整備に向けての案を提示していたが、整備の状況に応じて 3 段階に分けて示すこととした。
- 揚輝荘活用基本計画(案)P.4「Ⅲ 管理運営の考え方（案）」は、指定管理者選定の際に提案を求める事項を示した。

○　Ⅲ 管理運営の考え方（案）及び貸室について
- 北園の活用・整備方針・内容が固まっていないので、現時点で条例に盛り込むことが難しい。ただし、揚輝荘全体での施設設置目的などは今回定める予定。
- 指定管理者に提案を求めることまで報告書に記載するのは、行き過ぎている。主に展示計画のベースになっている考え方があればよく、指定管理者への提案まで指定しなくてよいのではないか。
- 提案にあるような事項を指定管理者選定の際に提案させれば、質が高くなりよい。
- 多様な主体が協働するのはなかなか難しいという議論があった。
- 管理運営の部分については、名古屋市と相談して進める。
- 揚輝荘の魅力や特性を生かすための管理なども入れたほうがよいのではないか。
- 揚輝荘の特性が市民交流だということは共通の認識になっているが、市民交流だけだと他の場所でもよい。揚輝荘の魅力を活かした市民交流にするべき。
- 貸室の活用について、市民交流やまちづくりが基本的な考え方だが、公平にしていかなくてはならない。利用目的が揚輝荘に適しているか判断することは難しく、きちんと選べるのか疑問である。選定理由などを開示できるようにしたほうがよい。

○　揚輝荘全体の活用について

・まちづくり団体は、会議をする場所に困っているし、案内やイベント受付なども個人宅に負担を掛けて運営している。共同でよいので、FAX など事務局機能を置かせてくれるとありがたい。管理人については各団体から交代制でよい。

○　聴松閣活用について

・トンネルへの地下階段は、降りてその先の空間が見られるだけでも圧巻で見所の一つである。

・トンネルへの地下階段は修復する予定はなく、手すりの設置もしないため、基本的には下りられないが、ガイド付きであれば下りることも可能ではないか。常時ではなくても、降りる機会があればよいだろう。

・模型は、奥まった旧料理室に展示するのではなく、1F に揚輝荘の紹介部屋があるので、その近辺やエントランスにあるほうがよいのではないか。この類の模型は、施設に入ってすぐのところで、全貌がわかってから順に見ていくというのが一般的。

・旧料理室は、天井が低く圧迫感があるのでゆっくり展示を見てくれるのか不安である。旧料理室が倉庫（バックヤード）だと大変使い勝手がよい。

・倉庫 1,2 の EV ホール側の壁を動かして、EV ホールを広げ、滞留スペースとして使うようにしてはどうか。

・展示スペースが 3 フロアに分かれていてわかりづらい。地下に展示スペースは要らないのではないか。

・地下の EV ホール周辺はオリジナルの場所ではないので、積極的に見せるという考えはしていない。

・倉庫部分は、インド旅行や祐民氏のアジア交流に関することであれば展示してもよいだろう。

・1F の常設のサンルームが結構広いので模型を置けばよいのではないか。もしくは旧居間。

○　展示内容について

・祐民氏が、外堀町通りのまちづくりと御幸本町のまちづくりに力を入れていたことも「⑨近代名古屋の財界・社会状況について(2)」で紹介したい。（高木傭）

・「⑨近代名古屋の財界・社会状況について(2)」の日泰寺誘致の話などは、⑪の地域の文化に組み込めばよい。

・「⑫祐民インド旅行」は、地下に配置したほうがよい。場合によっては、祐民氏に関わっていた写真家の作品なども展示できるとよい。

・展示内容は簡潔にして、より深く知りたい人は書籍コーナーで調べてもらうほうがよいと考えている。

・展示の横に、持ち帰れる紙の説明資料を置いている施設もあり、揚輝荘でもやれるとよい。
・展示業者よりジオラマに映像をリミックスさせる展示方法を提案されている。模型（東部丘陵なども含めた広範囲がよい）の上に様々な音声や映像を引き出すことができる。
・最近の最先端は、5 年もすると古くなり、更新などができなくなる可能性もある。
・ハードを固定してしまうと滑稽なほど骨董品のようになってしまうので、ハードは固定しないほうがよい。
・いくつかの 3D 映像が引き出せるようにするなどソフトウェアコントロールだけで済むのであれば、模型は必要なくなる。技術的に様々なことができる時代なので固定化して模型と考えるのではなく、もう少し柔軟にしておいたほうがよい。
・あまりこのようなものにお金をかけなくてもよいと思う。立派なものがあってもあまり関心しない。別でお金をかければよい。
・模型は、相応寺のつどいで椙山の学生が発表した航空写真を使った展示程度で十分だと思う。
・何となく、空間は残しておいてほしいと思う。空間を潰してしまうのはもったいない。
・祐民氏が名古屋の文化を支えてきたという展示がほしい。
・パネル中心で、現物展示も紙中心なのでなかなか面白みがない。鎧や屏風のようなものが飾れると面白いのではないか。他の博物館から資料を借りるとなると、湿度管理などがきちんとできる設備が必要。貴重品が展示できるような器具を用意するとしても、あまり痛まないようなものでメインになるものが 1 つ 2 つ展示できるほうがよい。
・そのような展示は、企画展示でやるべきである。

○　動線について
・庭へ出る人たちのことも考慮して履物の対応はどのようにするつもりかよく検討するべき。聴松閣の玄関だけで全て対応しようとすると下足箱の設置だけでは難しい。座敷の整備時にどうするかが重要である。
・不正に入場してくる人もいるので第 2 段階の In-Out の位置で、第 1 段階から受付するべき。
・聴松閣東側は通せるようにするべき。
・In-Out の場所は同じ場所にして入った所から出るほうがよいだろう。
・機械の In-Out を設ければ管理できると考えている。
・玄関から入るようにして自由に入場できないようにしたほうがよい。第 2 段階で下足箱をたくさん設置して、その数以上は入館できないようにし、人数制限するべき。
・展示計画とは直接関係ないので、建物外の動線については保留にして指定管理者が考えるとしておけばよい。

○　その他

・車イスの方は、玄関から仮設のスロープを利用してあがり、室内の段差にも、仮設のスロープを使用する。地下鉄などで係員がスロープを持ってくるようなイメージ。

・電動車イス利用者は、手動の車イスに乗り換えてもらうようにすることになるだろう。数台常備しておく必要がある。

・揚輝荘北園入り口の勾配も、基準は満たしているが急なのでもう一度見直す必要がある。

・弱者に対する対応をおろそかにするべきではない。必要に応じて手助けすることも考えられる。展示の案内も含め、人によるサポートも重要。

・地下の舞台と北園の野外は、最低限の音響と照明を備えてほしい。

・食堂にグランドピアノがほしい。

・料金を徴収すると、いきなり人が来なくなることがある。サインや PR が大切。戦略的な売込みが必要である。また、ハードで勝負するのは難しいので、歴史やまちづくりに特化した勉強会や演奏会、サイエンスカフェなどを定期的に行うなど、ソフト面で人を惹きつけられるとよい。

・祐民氏が上映会をよく行っていたので、舞踏場にはスクリーンを設けて欲しい。

以上